

五ヶ瀬町林道施設長寿命化計画
(個別施設計画)

令和2年10月

五ヶ瀬町役場農林課

1. 長寿命化修繕計画の基本的事項

五ヶ瀬町が管理する林道橋梁は、2020年3月末現在で22橋あり、今後、建設後50年を経過した高齢化橋梁が急増する見通しである。2020年現在で、建設後50年以上を経過した橋梁は12橋（50%）であるが、10年後の2030年度には15橋（68%）、20年後の2040年度には19橋（86%）を占め、急速に老朽化した橋梁が増える状況である。

これらの橋梁に対して、損傷が深刻化してはじめて大規模な修繕を実施する事後保全的な維持管理を継続した場合、維持管理費用が非常に高くなり、適切な維持管理が困難になる恐れがある。

これらを踏まえ、橋梁の長寿命化と補修・更新に係（か）わるトータルコストの縮減や財政負担の平準化を図るとともに、林道利用者の車両通行の安全性を確保するため「五ヶ瀬町林道橋梁長寿命化計画【個別施設計画】」を策定し、従来の事後保全的な補修・更新だけでなく、定期点検により橋梁の現状を把握し、限られた予算内で予防保全型維持管理の考えを導入し、橋梁の長寿命化によるコスト縮減と道路交通の安全性の確保に努めていく。

図1 現橋梁の供用年数

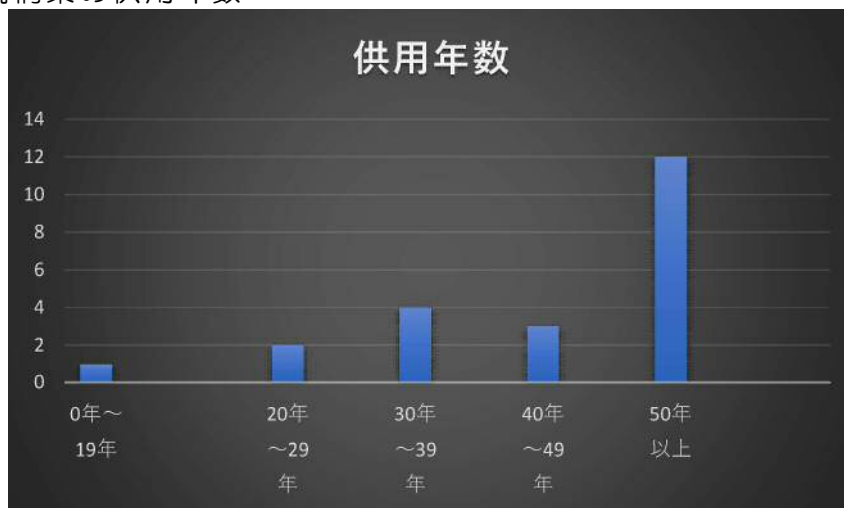
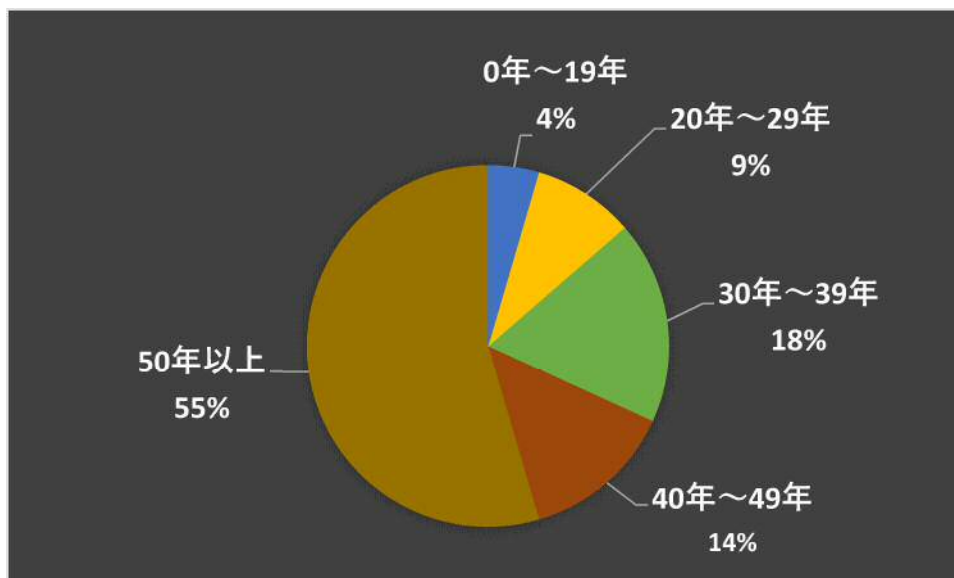
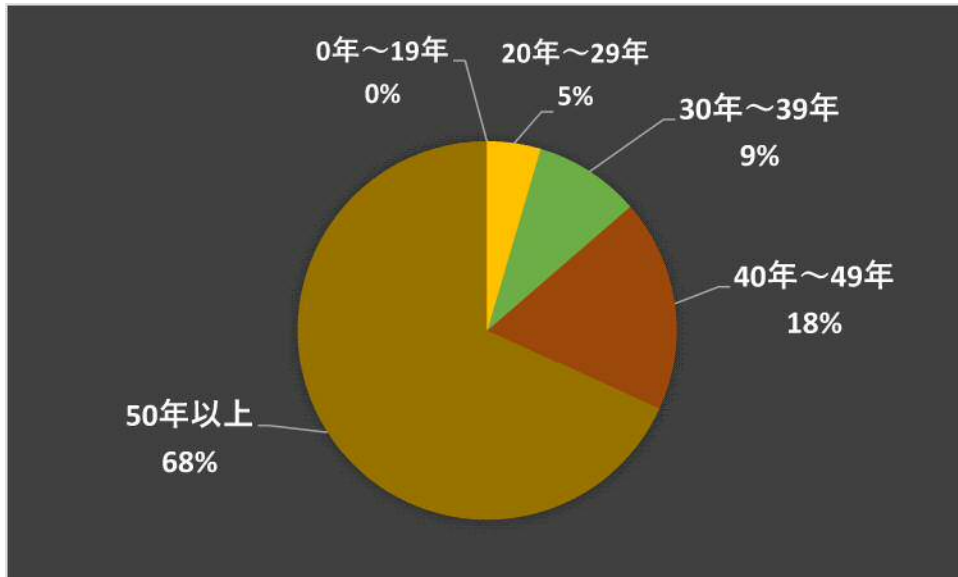


図2 架設からの経過年数割合

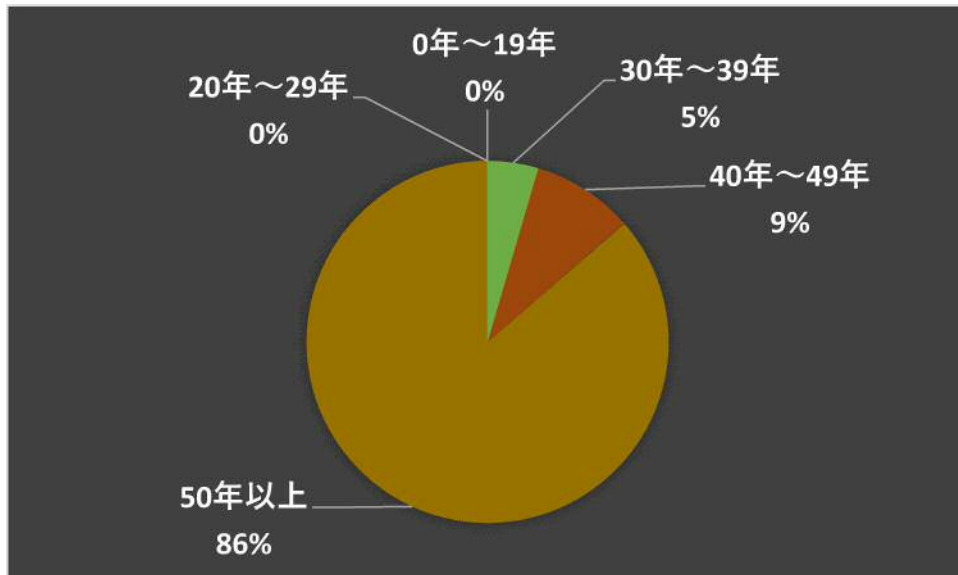
令和2年度末



令和12年度末



令和22年度末



2. 施設対象

本計画の対象とする施設は、林野庁が策定した「林道施設長寿命化マニュアル（平成28年3月）」により、林道台帳に記載された橋梁22橋とし別途個票のとおりとする。

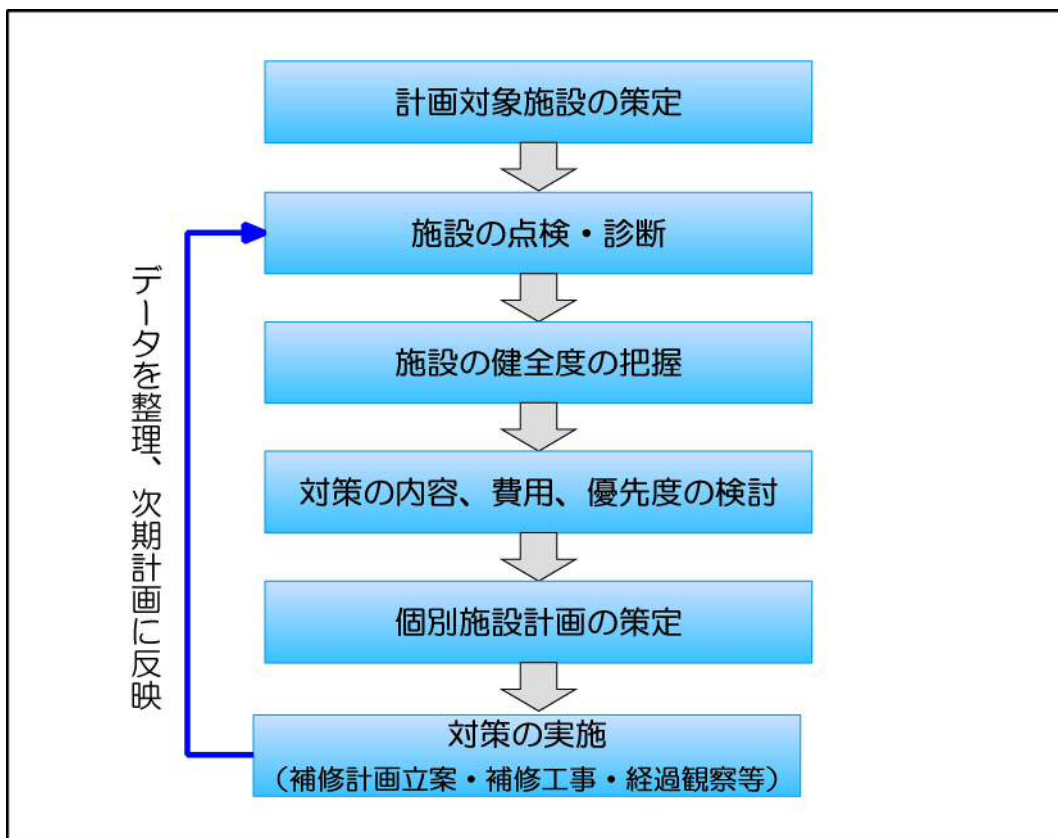
3. 計画期間

この計画は、令和3年から令和12年までの10年間を当初計画期間として、5か年毎に見直すこととし、次期計画に反映させることとする。

4. 計画の流れ

これまでの、機能しなくなった段階で更新する「事後保全型管理」から、経年劣化を未然に抑制するよう維持管理する「予防保全型維持管理」の考え方を導入し、個々の橋梁の現状を把握するとともに、これを踏まえた施設毎の維持管理・更新等の内容

について整理・計画することとする。



5. 施設の優先度

点検結果による橋梁毎の健全性の判定及び林道の設置目的や交通量、緊急時の迂回路としての機能等の橋梁の重要度に基づいて優先度を設定する。

1) 橋梁の健全性による分類

① 対策区分の判定

対策区分	判定の内容
A	損傷が認められないか、損傷が軽微で補修を行う必要がない。
B	状況に応じて補修を行う必要がある。
C1	予防保全の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
C2	橋梁構造の安全性の観点から、速やかに補修等を行う必要がある。
E1	橋梁構造の安全性から、緊急対策の必要がある。
E2	その他、緊急対応の必要がある。
M	維持工事に対応する必要がある。
S1	詳細調査の必要がある。
S2	追跡調査の必要がある。

②健全度の判定

区 分		定 義
I	健全	道路橋の機能に支障は生じていない状態。
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置すべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている。又は生じる可能性が著しく、緊急に措置を講ずべき状態。

林道施設長寿命化対策マニュアル（平成28年3月 林野庁整備課）

③健全性の判定と対策区分の判定の関係の目安

I	A、B
II	C1、M
III	C2
IV	E1、E2

林道施設長寿命化対策マニュアル（平成28年3月 林野庁整備課）

2) 橋梁の重要度による分類

①重要度の項目

項 目	内 容
生活道路	路線沿線に集落が点在し、生活道路としての機能を有する。
重要施設	路線沿線に水道、電力、その他施設がある。
交通量	交通量が多く劣化の進行が早い。
迂回路の有無	落橋した場合、集落が孤立する恐れがある。

②重要度の分類

評価項目	重要度		
	高	中	低
生活道路	沿線に集落有		沿線に集落無
重要施設	有		無
交通量	多 (町・県道を結ぶ林道)	中 (集落有)	少 (集落無)
迂回路	無		有

6. 施設の状態等

本計画の策定にあたって実施した点検・診断により把握された施設毎の損傷等の状態及び費用、計画期間、実施時期については、別途個票に示すとおりである。

7. 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講ずる対策の内容及び実施時期については、別途個票のとおりとする。

1) 橋梁定期点検

林道長寿命化マニュアルに基づき、全橋梁の定期点検（5年に1回）を実施し、橋梁の損傷度を把握する。

2) 情報の蓄積と利活用

点検及び修繕した結果は、橋梁の現状を把握するためデータ管理を行い効率的な維持管理を実施するとともに、橋梁位置情報もデータ化を進めることにより、必要な情報を管理し、今後の維持管理に活用することとする。

3) 橋梁長寿命化計画におけるトータルコストの縮減・平準化

橋梁状態を維持・向上を図りながら中長期的な維持管理に係わるトータルコストの縮減や財政負担の標準化を図るとともに、国の交付金等を積極的に活用し、一般財源の抑制・平準化に努めることとする。

8. 対策費用

個別施設ごとの対策費用の概算については別途個票のとおりとする。なお、この金額は計画策定時点における概算費であり、具体の工事発注時における詳細な金額は、社会情勢の変化等により、変動が生じる場合がある。

五ヶ瀬町林道橋梁個別設計画一覧表

【更新年月日:令和2年7月31日】

個別 施設 整理 番号	林道 台帳 索引 番号	道路 種別	路線名	林道種類 及び区分	橋梁名	所在地	起 点 から の 距離	建設 年度	供用 年数	径間	種別	形式	道路橋 示方書	橋格 (設計荷重)	橋下 条件	橋長 (m)	幅員 (m)	上部工形式	橋台工 形式	橋脚工 形式	海岸から の距離 (Km)	施設の状況			計画内容				優先度	措置記録					備考		
																						点検実施 年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施 予定 時期		対策費用 概算 (百万円)	実施 年月日	内容	対策費用 (百万円)	再判定実施 年月日		再判定 区分	
																										分類	概要(数量)										分類
1	2	奥地	大石越線	自動車道1級	五協橋	五ヶ瀬町 大字鞍岡	13.6Km	H2年	30年	1径間	鋼橋	鋼単純合成形桁	S59年	1等級(TL-20)	荒谷川	32.70	5.25	鋼単純合成形桁	逆T式	-	-	R1.10.24	II	主桁に腐食	R3~R7	点検	-	R6	0.91	中	H25	補修	伸縮装置取替工	不明	-	-	
2	2	奥地	大石越線	自動車道1級	白滝2号橋	五ヶ瀬町 大字鞍岡	15.6Km	S61年	34年	1径間	PC橋	PCプレテン中空床版	S59年	-	白滝川	8.60	6.25	PCプレテン中空床版	重力式	-	-	R1.10.24	II	床版に漏水・遊離石灰	R3~R7	点検	-	R6	0.24	高							
3	2	奥地	大石越線	自動車道1級	白滝1号橋	五ヶ瀬町 大字鞍岡	15.9Km	S60年	35年	1径間	PC橋	PCプレテン中空床版	S59年	-	荒谷川	10.00	5.00	PCプレテン中空床版	重力式	-	-	R1.10.25	I	主要部材に損傷無	R3~R7	点検	-	R6	0.27	高							
4	2	奥地	大石越線	自動車道1級	新荒谷橋	五ヶ瀬町 大字鞍岡	16.0Km	S59年	36年	1径間	鋼橋	鋼単純合成形桁	S53年	1等級(TL-20)	五ヶ瀬川	25.46	6.00	鋼単純合成形桁	重力式	-	-	R1.10.25	II	主桁に防食機能の劣化	R3~R7	点検	-	R6	0.70	高	H25	補修	伸縮装置取替工	不明	-	-	
5	4	奥地	尾平線	自動車道2級	谷下橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.0Km	S45年	50年	1径間	RC橋	RCコンクリートT桁	S39年	2等級(TL-14)	尾平川	13.00	4.00	RCコンクリートT桁	逆T式	-	-	H30.11.8	III	主桁に剥離・鉄筋露出	R3~R7	点検	-	R5	0.40	高	H26	補修	防護柵補修工	不明	-	-	
6	4	奥地	尾平線	自動車道2級	江良橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	3.0Km	S44年	51年	1径間	RC橋	RCコンクリートT桁	S39年	-	三ヶ所川	15.00	3.80	RCコンクリートT桁	重力式	-	-	H30.11.13	II	床版に漏水・遊離石灰	R3~R7	点検	-	R5	0.76	高	H25	補修	伸縮装置取替工	不明	-	-	
7	4	奥地	尾平線	自動車道2級	3号橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	3.3Km	S44年	51年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S39年	-	三ヶ所川支流	5.04	3.70	RCコンクリート床版	重力式	-	-	H30.11.26	I	防護柵に腐食	R3~R7	点検	-	R5	0.20	高	H25	補修	洗掘補修対策工	不明	-	-	
8	5	奥地	萩原・波俣線	自動車道2級	八頭龍橋	五ヶ瀬町 大字鞍岡	15.0Km	H6年	26年	1径間	鋼橋	鋼単純合成形桁	H2年	1等級(TL-20)	小川川	15.00	5.25	鋼単純合成形桁	逆T式	-	-	R1.10.22	II	主桁に腐食	R3~R7	点検	-	R6	0.42	中	H25	補修	伸縮装置取替工	不明	-	-	
9	5	奥地	萩原・波俣線	自動車道2級	本谷橋	五ヶ瀬町 大字鞍岡	16.0Km	H7年	27年	1径間	鋼橋	鋼単純合成形桁	H6年	1等級(TL-20)	本谷川	16.00	5.80	鋼単純合成形桁	重力式	-	-	R1.10.23	II	主桁に腐食	R3~R7	点検	-	R6	0.44	中							
10	5	奥地	萩原・波俣線	自動車道2級	朝の戸橋	五ヶ瀬町 大字鞍岡	21.0Km	H14年	18年	1径間	PC橋	PCプレテン中空床版	H8年	A活荷重	朝ノ戸谷	12.20	5.25	PCプレテン中空床版	逆T式	-	-	R1.10.22	II	主桁にうき・剥離・鉄筋露出	R3~R7	点検	-	R6	0.33	中							
11	6	奥地	戸根川線	自動車道2級	戸根川橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.2Km	S42年	53年	2径間	RC橋	RCコンクリートT桁 RCコンクリート床版	S39年	-	三ヶ所川	18.60	3.60	RCコンクリートT桁 RCコンクリート床版	重力式	壁式	-	H30.11.15	III	主桁に剥離・鉄筋露出	R3~R7	点検	-	R5	0.36	高	H26	補修	防護柵補修工 伸縮装置取替工	不明	-	-	
12	6	奥地	戸根川線	自動車道2級	2号橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	1.8Km	S45年	50年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S39年	-	戸根川支流	5.04	3.60	RCコンクリート床版	重力式	-	-	H30.12.5	II	舗装に路面の凹凸	R3~R7	点検	-	R5	0.25	中	H26	補修	洗掘補修対策工	不明	-	-	
13	6	奥地	戸根川線	自動車道2級	3号橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	2.7Km	S45年	50年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S39年	-	戸根川支流	5.04	3.60	RCコンクリート床版	重力式	-	-	H30.11.26	II	床版に床版ひびわれ	R3~R7	点検	-	R5	0.25	中							
14	6	奥地	戸根川線	自動車道2級	4号橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	4.1Km	S45年	50年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S39年	-	戸根川	7.00	3.60	RCコンクリート床版	重力式	-	-	H30.11.20	II	床版に漏水・遊離石灰	R3~R7	点検	-	R5	0.35	中							
15	7	その他	内の口線	自動車道2級	内の口橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.03Km	S45年	50年	1径間	RC橋	RCコンクリートT桁	S39年	-	内の口川	10.00	3.70	RCコンクリートT桁	重力式	-	-	R2.5.28	II	床版に漏水・遊離石灰	R3~R7	点検	-	R7	0.50	高	H26	補修	舗装打替工 防護柵補修工 伸縮装置取替工	不明	-	-	
16	7	その他	内の口線	自動車道2級	赤岩橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	1.4Km	S45年	50年	1径間	RC橋	鋼単純非合成H形桁	S39年	-	谷場山川	18.00	3.60	鋼単純非合成H形桁	重力式	-	-	R1.10.21	II	床版に漏水・遊離石灰	R3~R7	点検	-	R6	0.50	中	H25	補修	伸縮装置取替工	不明	-	-	
17	8	その他	川曲線	自動車道3級	川曲橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.5Km	S45年	50年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S39年	-	高畑川	5.05	3.00	RCコンクリート床版	重力式	-	-	R2.5.29	II	床版にうき・剥離・鉄筋露出	R3~R7	点検	-	R7	0.25	中							
18	9	その他	笹の越線	自動車道2級	笹の越橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.9Km	S44年	51年	1径間	RC橋	RCコンクリートT桁	S39年	-	笹の越川	9.00	3.60	RCコンクリートT桁	重力式	-	-	R1.10.21	II	床版にうき・剥離・鉄筋露出	R3~R7	点検	-	R6	0.25	中	H25	補修	伸縮装置取替工	不明	-	-	
19	11	その他	大石線	自動車道3級	上大石橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.0Km	S46年	49年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S39年	-	走川谷川	6.50	4.00	RCコンクリート床版	重力式	-	-	R2.5.29	I	床版にうき・剥離・鉄筋露出	R3~R7	点検	-	R7	0.22	中	H26	補修	洗掘補修対策工	不明	-	-	
20	14	その他	杉の越線	自動車道2級	杉の越橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.0Km	S47年	48年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S39年	-	内の口川	6.60	3.60	RCコンクリート床版	重力式	-	-	R2.5.28	I	地覆に漏水・遊離石灰	R3~R7	点検	-	R7	0.33	高							
21	15	その他	笹の原線	自動車道2級	笹の原橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.05Km	S49年	46年	1径間	RC橋	RCコンクリートT桁	S39年	-	谷場山川	14.00	4.00	RCコンクリートT桁	重力式	-	-	R1.10.22	II	主桁にひびわれ	R3~R7	点検	-	R6	0.39	中	H26	補修	洗掘補修対策工	不明	-	-	
22	24	その他	丹波山線	自動車道3級	丹波山橋	五ヶ瀬町 大字三ヶ所	0.05Km	S33年	62年	1径間	RC橋	RCコンクリート床版	S31年	-	谷場山川支流	7.30	2.00	RCコンクリート床版	重力式	-	-	R2.5.29	III	床版にうき・剥離・鉄筋露出	R3~R7	点検	-	R7	0.37	中	H25	補修	伸縮装置取替工	不明	-	-	

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号	2	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	大石越線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	五協橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字鞍岡	起点からの距離	13.6Km	建設年度	平成2年
供用年数	30年	種別	鋼橋	型式	鋼単純合成I形桁
道路橋示方書	昭和59年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(TL-20)	橋下条件	荒谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	32.70m		幅員(車道幅員)	5.25m
	施設の構造等	上部工形式	鋼単純合成I形桁			
			鋼製(使用鋼材)	SMA50CW・BW・AW SMA41CW・BW・AW・SS41	塗装使用の有無	無
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
	橋台工形式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工形式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道 大石越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、交通量は少ないが、大石地区から荒谷地区を結ぶ路線でもあり、災害時の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有している。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月24日	
	調査結果	主桁01の主桁桁端部の下フランジ部に腐食が生じている。また、床版中央付近に(150mm×100mm)の剥離・鉄筋露出が生じている。また、橋台01(A1)の堅壁に2ヶ所のひびわれ(W=0.30mm・L=1.10m)、漏水・遊離石灰(L=1.70m)が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁01桁端部の腐食は、路面排水の影響を受けた損傷である。伸縮装置取替により腐食の進行は進んでいない。道路橋の状態に支障はないものの、予防保全の観点から状況に応じて(進行性等)措置を行うことが望ましい。
	劣化原因	主桁01桁端部の腐食は路面排水の影響を受けた損傷である。伸縮装置取替により腐食の進行は進んでいない。床版の剥離・鉄筋露出はかぶり不足によるものであり、下部工のひびわれ・漏水・遊離石灰は乾燥収縮や収縮後のひびわれが進行して遊離石灰が生じたものである。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	状況に応じて、主桁桁端部の腐食対策として、腐食損傷部材の当て板補修を行う。	
	実施予定時期	過年度に伸縮装置取替工の補修対策実施済みであることや損傷は比較的小規模であることから、5年に1回の定期点検で経過観察とする。	
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 判定区分Ⅱの見解や大石地区～荒谷地区へは国道を利用するが、災害時には、迂回路として機能を果たす役割や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「中」とした。
	対策費用	定期点検 約 910千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 主桁の腐食対策の当て板補修は状況に応じて行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		0.91					0.91			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 予防保全型点検

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号	2	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	大石越線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	白滝2号橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字鞍岡	起点からの距離	15.6Km	建設年度	昭和61年
供用年数	34年	種別	PC橋	型式	PCプレテン中空床版
道路橋示方書	昭和59年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	白滝川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.60m		幅員(車道幅員)	6.25m
	施設の構造等	上部工形式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 大石越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、交通量は少ないが、大石地区から荒谷地区を結ぶ路線でもあり、災害時の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有している。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月24日	
	調査結果	プレテン床版桁端部の間詰部に漏水・遊離石灰、橋台01縦壁部に漏水・遊離石灰、その他、防護柵に変形・欠損が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	プレテン床版の間詰からの漏水・遊離石灰であり、橋面に貫通したひびわれ等は確認されないため、損傷としては軽微な部類である。下部工の漏水・遊離石灰も同様に軽微な損傷であるため、現状では、橋梁の機能に支障は生じていない。経過観察で対応することが望ましい。
	劣化原因	橋台胸壁からの排水混入の影響により間詰部に軽微な漏水・遊離石灰が生じたものと思われる。下部工の漏水・遊離石灰は施工時の打ち継ぎ目が乾燥収縮が進行したした損傷と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	損傷は軽微であるため、次回点検による経過観察	
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。	
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障は生じていないが、大石地区～荒谷地区へは国道を利用するが、災害時には、迂回路として機能を果たす役割や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「高」とした。
	対策費用	定期点検 約 240千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ・林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		0.24					0.24			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に簡易点検実施 ・一般管理型点検

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号	2	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	大石越線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	白滝1号橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字鞍岡	起点からの距離	15.9Km	建設年度	昭和60年
供用年数	35年	種別	PC橋	型式	PCプレテン中空床版
道路橋示方書	昭和59年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	荒谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.00m		幅員(車道幅員)	5.00m
	施設の構造等	上部工形式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 大石越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、交通量は少ないが、大石地区から荒谷地区を結ぶ路線でもあり、災害時の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有している。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月25日				
	調査結果	点検の結果、道路橋の機能に影響する損傷は確認されない。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。今後も定期点検による経過観察が望ましい。			
	劣化原因	損傷無し				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷ではないため、次回点検による経過観察とする。				
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。				
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 判定区分 I であるが、大石地区～荒谷地区へは国道を利用するが、災害時には、迂回路として機能を果たす役割や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「高」とした。			
	対策費用	定期点検 約 270千円				
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 					

	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		0.27					0.27			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号	2	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	大石越線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	新荒谷橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字鞍岡	起点からの距離	1.8Km	建設年度	昭和59年
供用年数	36年	種別	鋼橋	型式	鋼単純合成I形桁
道路橋示方書	昭和53年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(TL-20)	橋下条件	五ヶ瀬川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	25.46m		幅員(車道幅員)	6.00m
	施設の構造等	上部工形式	鋼単純合成I形桁			
			鋼製(使用鋼材)	SMA50ACOR	塗装使用の有無	無
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
	橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工形式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道 大石越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、交通量は少ないが、大石地区から荒谷地区を結ぶ路線でもあり、災害時の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有している。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月25日	
	調査結果	床版には損傷は生じていない。主桁側面・横桁側面の広範囲に防食機能の劣化生じている。各支承に腐食が確認された。その他、高欄に変形・欠損を確認した。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁・横桁の部材は耐候性鋼材であるが、緻密な錆が減少して下地が露出している。また、支承は腐食が見られる。道路橋の機能に支障はないものの、予防保全の観点から主桁・横桁の塗装、支承の塗装を行うことが望ましい。
	劣化原因	桁下高が低く、常時水分が供給しやすいことから結露や湿潤状態になり保護性錆が少なくなったものと考えられる。当該橋梁は高地であり冬季には凍結防止剤を散布する機会も多く、今後は腐食の進行が懸念される。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	確認された損傷は、橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷ではないが、損傷の状況によっては、腐食の進行が進むことが想定されるため、塗装補修の検討が望ましい。	
	実施予定時期	予防保全の観点から、状況に応じ補修工事を検討する。	
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 判定区分Ⅱであり、大石地区～荒谷地区へは国道を利用するが、災害時には、迂回路として機能を果たす役割や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「高」とした。
	対策費用	定期点検 約 700千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、防食機能の劣化や腐食に対する補修工を状況に応じて行い、適正な時期に定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		0.70					0.70			
対策の内容・実施時期		点検					点検			

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 予防保全型点検

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号	4	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	尾平線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	谷下橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.0Km	建設年度	昭和45年
供用年数	50年	種別	RC橋	型式	RCコンクリートT桁
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	2等橋(TL-14)	橋下条件	尾平川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	13.00m		幅員(車道幅員)	4.00m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリートT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 尾平線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、尾平線は、桑の木谷・舟の谷・奈良津・内の谷・尾原地区への幹線道路の役割も担い、近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有している。					

施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月8日	
	調査結果	主桁桁下面の広範囲に剥離・鉄筋露出・横桁・床版に剥離・鉄筋露出が生じている。橋台パラペットより路面水の混入により漏水が生じている。また、橋面に路面の凹凸(2.5cm)が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	主桁下面部にかぶり不足と推測される剥離・鉄筋露出を広範囲に確認。鉄筋露出部の鉄筋の状態を確認したが、鉄筋膨張や破断の損傷は見られない。放置するとコンクリート部材の損傷を助長する要因となるため、詳細調査→補修設計の対応が望ましい。
	劣化原因	主桁・横桁・床版の「剥離・鉄筋露出」は施工不良のかぶり不足によるものである。また、橋面に生じている路面の凹凸は経年劣化により生じたものと推測される。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	竣工から50年経過した橋梁であり経年劣化による損傷要因も大きいと思われる。主桁の剥離・鉄筋露出として、「断面修復工」による補修検討、橋台の漏水対策に「伸縮装置取替工」の補修検討、その他、路面の凹凸は維持管理措置にて対応が望ましい。	
	実施予定時期	早期措置段階となるため、状況に応じて詳細調査→補修計画立案が望ましい。	
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 本橋梁より奥地には集落が多く点在し、周辺地域住民には欠かせない路線(橋梁)であり、点検結果からも判定区分Ⅲ相当であることから、優先度は「高」とする。
	対策費用	定期点検 約 400千円	
管理方法	・林道施設個別施設計画策定として、損傷状況・規模等の詳細調査(補修設計)が必要であり、その後に断面修復工、橋面舗装工、伸縮装置取替工等の補修工事を状況に応じて対応する。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。		

	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.40					0.40				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
・平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 ・一般管理型点検

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号	4	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	尾平線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	江良橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	3.0Km	建設年度	昭和44年
供用年数	51年	種別	RC橋	型式	RCコンクリートT桁
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	三ヶ所川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.00m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリートT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 尾平線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、尾平線は、桑の木谷・舟の谷・奈良津・内の谷・尾原地区への幹線道路の役割も担い、近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有している。					

施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月13日	
	調査結果	主桁にひびわれ、横桁に剥離・鉄筋露出、床版に剥離鉄筋露出が生じている。また、各支承に防食機能の劣化が確認生じており、一部の支承に支承機能の障害が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	各部材に損傷が生じているものの、損傷規模は小さく道路橋に支障をきたす損傷ではないため、今後も定期点検による経過観察が望ましい。
	劣化原因	主桁のひびわれは施工時の乾燥収縮によるものであり、床版の剥離・鉄筋露出は施工不良のかぶり不足が進行したものである。支承機能の障害はボルト締め付けが甘く経年劣化でボルトの緩みが生じた可能性が高い。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	損傷は軽微であるため、次回点検による経過観察	
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。	
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障は生じていないが、本路線は、迂回路として機能を果たす役割や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「高」とした。
	対策費用	定期点検 約 760千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.76					0.76				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 予防保全型点検

個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号	4	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	尾平線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	3号橋(尾平線)
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	3.3Km	建設年度	昭和44年
供用年数	51年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	三ヶ所川支流

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.04m		幅員(車道幅員)	3.70m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	不明	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 尾平線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、尾平線は、桑の木谷・舟の谷・奈良津・内の谷・尾原地区への幹線道路の役割も担い、近隣地域を結ぶ生活道路としての機能も有している。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月26日				
	調査結果	床版・下部工には損傷は生じていない。橋面の防護柵に腐食が生じている。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態である。今後も定期点検による経過観察が望ましい。			
	劣化原因	防護柵の腐食は経年劣化により発生したものである。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷は確認されないため、次回点検による経過観察とする。				
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。				
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 判定区分 I であるが、本路線は、迂回路として機能を果たす役割や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「高」とした。			
	対策費用	定期点検 約 200千円				
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 					

	平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.20					0.20				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号	5	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	荻原・波帰線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	八頭龍橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字鞍岡	起点からの距離	15.0Km	建設年度	平成6年
供用年数	26年	種別	鋼橋	型式	鋼単純合成I形桁
道路橋示方書	平成2年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(TL-20)	橋下条件	小川川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.00m		幅員(車道幅員)	5.25m
	施設の構造等	上部工形式	鋼単純合成I形桁			
			鋼製(使用鋼材)	SMA490AW・SS400	塗装使用の有無	無
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道 荻原・波帰線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該林道は、災害時の迂回路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月22日	
	調査結果	床版全体・横桁に損傷は確認されない。主桁は耐候性鋼材が使用されており、外側に位置する部材(主桁01・01-1・01-2・03)で腐食(防劣)が確認された。主桁の耐候性鋼材(外側面部)では、緻密な錆がなくなり、下地が露出している。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	主桁の腐食は、橋面のつたい水等の影響を受けやすい桁側面は、主桁の塗装系補修、支承に板厚減少を伴わない腐食が生じているため、塗装補修の検討をすることが望ましい。
	劣化原因	本橋の標高は約750m付近であり、冬季には積雪する期間も長い。そのため、主桁の腐食(保護正錆の減少)は結露や湿潤状態が長く続くため、耐候性鋼材の保護性錆が減少したものと思われる。支承の腐食も同様に桁端部からの水分供給により腐食が生じたものと思われる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	確認された損傷は、橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷ではないが、損傷の状況によっては、腐食の進行が進むことが想定されるため、塗装補修の検討が望ましい。	
	実施予定時期	予防保全の観点から、状況に応じ補修工事を検討する。	
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 当該林道は、災害時の迂回路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られることから優先度は「中」とした。
	対策費用	定期点検 約 420千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ・林道施設個別施設計画策定として、防食機能の劣化や腐食に対する補修工を状況に応じて行い、適正な時期に定期点検を行う。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
対策費用(百万円)	0.42					0.42				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備考
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 ・予防保全型点検

個別施設整理番号	9	林道台帳索引番号	5	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	荻原・波帰線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	本谷橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字鞍岡	起点からの距離	16.0Km	建設年度	平成7年
供用年数	27年	種別	鋼橋	型式	鋼単純合成I形桁
道路橋示方書	平成6年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(TL-20)	橋下条件	本谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.00m		幅員(車道幅員)	5.80m
	施設の構造等	上部工形式	鋼単純合成I形桁			
			鋼製(使用鋼材)	SMA490AW・SMA400AW	塗装使用の有無	無
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道 荻原・波帰線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該林道は、災害時の迂回路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月23日				
	調査結果	耐候性鋼材の主桁の添接部・上下フランジ・桁下面に腐食、主桁側面・横桁側面の広範囲に、防食機能の劣化を確認した。その他、伸縮装置・舗装に土砂詰まりが確認された。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	各部材に損傷が生じているものの、損傷規模は小さく道路橋に支障をきたす損傷ではないため、今後も定期点検による経過観察が望ましい。			
	劣化原因	本橋の標高は約800m付近であり、冬季には積雪する期間も長い。そのため、主桁の腐食(保護正錆の減少)は結露や湿潤状態が長く続いたため、耐候性鋼材の保護性錆が減少したものと思われる。支承の腐食も同様に桁端部からの水分供給により腐食が生じたものと思われる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	確認された損傷は、橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷ではないが、損傷の状況によっては、腐食の進行が進むことが想定されるため、塗装補修の検討が望ましい。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、状況に応じ補修工事を検討する。				
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 当該林道は、災害時の迂回路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られることから優先度は「中」とした。			
	対策費用	定期点検 約 440千円				
管理方法	・林道施設個別施設計画策定として、防食機能の劣化や腐食に対する補修工を状況に応じて行い、適正な時期に定期点検を行う。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。					

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
対策費用(百万円)	0.44					0.44				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 予防保全型点検

個別施設整理番号	10	林道台帳索引番号	5	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	荻原・波帰線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	朝の戸橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字鞍岡	起点からの距離	21.0Km	建設年度	平成14年
供用年数	18年	種別	PC橋	型式	PCプレテン中空床版
道路橋示方書	平成8年度版	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	朝ノ戸谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.20m		幅員(車道幅員)	5.25m
	施設の構造等	上部工形式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 荻原・波帰線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該林道は、災害時の迂回路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られる。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月22日	
	調査結果	洪水時の転石衝突による「うき・剥離・鉄筋露出」「変形・欠損」が主桁・橋台・地覆に確認された。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	確認された損傷は外的要因(洪水時の転石衝突)によるものである。今後も定期点検による経過観察が望ましい。
	劣化原因	過去に橋梁桁下部が洪水時に流木や転石の影響で閉塞したことがあり、その際に転石が主桁・下部工に接触して部材に損傷を与えたため損傷が発生したと思われる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	損傷は軽微であるため、次回点検による経過観察が必要である。	
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。	
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 当該林道は、災害時の迂回路としての機能も有しており、地域住民の利用も見られることから優先度は「中」とした。
	対策費用	定期点検 約 330千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
対策費用(百万円)	0.33					0.33				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	11	林道台帳索引番号	6	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	戸根川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	戸根川橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.2Km	建設年度	昭和42年
供用年数	53年	種別	RC橋	型式	RCT桁+RC床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	三ヶ所川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	18.60m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリートT桁+RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 戸根川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻りに利用される。当該橋梁は集落より起点側に存在し、集落への出入りは当該橋梁に委ねられている。そのため、重要な施設であり、周辺地域住民の利用が多い路線である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月15日	
	調査結果	主桁01・02下面部にうきを広範囲に確認、鉄筋露出部にて鉄筋を確認したが、鉄筋の膨張や破断等の損傷は確認されない。また、伸縮装置に腐食、橋面に舗装の異常が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	主桁の損傷は施工時のかぶり不足や打設不良の影響と推測される。鉄筋は膨張や破断等の損傷は確認されないが、輪荷重の繰り返しにより耐力の低下が懸念されるため、詳細調査→補修設計の対応や現時点での補修対策検討の必要がある。
	劣化原因	主桁の「うき」「剥離・鉄筋露出」は施工不良のかぶり不足によるものである。また、橋面に生じている路面の凹凸は経年劣化により生じたものと推測される。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	竣工から50年経過した橋梁であり経年劣化による損傷要因も大きいと思われる。主桁の剥離・鉄筋露出として、「断面修復工」による補修検討、支承については板厚減少傾向と思われるため、支承取替工の検討、その他、舗装の異常は維持管理措置にて対応が望ましい。	
	実施予定時期	早期措置段階となるため、状況に応じて詳細調査→補修計画立案が望ましい。	
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 本橋梁より奥地には集落が点在し、周辺地域住民には欠かせない路線(橋梁)であり、点検結果からも判定区分Ⅲ相当であることから、優先度は「高」とする。
	対策費用	定期点検 約 360千円	
管理方法	・林道施設個別施設計画策定として、損傷状況・規模等の詳細調査(補修設計)が必要であり、その後に断面修復工、橋面舗装工、支承取替工等の補修工事を状況に応じて対応する。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。		

	平成30年	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
対策費用(百万円)	0.36					0.36				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 ・予防保全型点検

個別施設整理番号	12	林道台帳索引番号	6	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	戸根川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	2号橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	1.8Km	建設年度	昭和45年
供用年数	50年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	戸根川支流

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.04m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的 利用実態等	林道 戸根川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。路線沿線には神社があり、地域住民の利用が見られる。					

施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年12月5日	
	調査結果	床版に軽微な剥離・鉄筋露出が生じており、橋台背面の路面付近に路面の凹凸が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	部材に損傷が生じているものの、損傷規模は小さく道路橋に支障をきたす損傷ではないため、今後も定期点検による経過観察が望ましい。
	劣化原因	床版の剥離・鉄筋露出は施工不良のかぶり不足が進行したものである。橋台背面の路面付近の路面の凹凸は雨水による浸食で生じたものと思われる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	損傷は軽微であるため、次回点検による経過観察	
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和5年度に点検実施予定とする。	
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障は生じていないが、本路線は、林業施業により頻繁に利用され、路線沿線には神社があり、地域住民の利用が見られるため優先度は「中」とした。
	対策費用	定期点検 約 250千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ・林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	平成30年	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
対策費用(百万円)	0.25					0.25				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 ・一般管理型点検

個別施設整理番号	13	林道台帳索引番号	6	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	戸根川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	3号橋(戸根川線)
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	2.7Km	建設年度	昭和45年
供用年数	50年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	戸根川支流

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.04m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的 利用実態等	林道 戸根川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。路線沿線には神社があり、地域住民の利用が見られる。					

施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月26日	
	調査結果	床版に床版ひびわれや漏水・遊離石灰が生じており、伸縮装置や排水管に土砂詰まりが生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	部材に損傷が生じているものの、損傷規模は小さく道路橋に支障をきたす損傷ではないため、今後も定期点検による経過観察が望ましい。
	劣化原因	床版ひびわれ、漏水・遊離石灰の要因は施工時の乾燥収縮の影響によるものであり、橋梁の耐力や耐久性に直接影響を及ぼす損傷ではないと考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	損傷は軽微であるため、次回点検による経過観察	
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和5年度に点検実施予定とする。	
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障は生じていないが、本路線は、林業施業により頻繁に利用され、路線沿線には神社があり、地域住民の利用が見られるため優先度は「中」とした。
	対策費用	定期点検 約 250千円	

管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 	
------	---	--

	平成30年	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
対策費用(百万円)	0.25					0.25				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	14	林道台帳索引番号	6	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	戸根川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	4号橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	4.1Km	建設年度	昭和45年
供用年数	50年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	戸根川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.00m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的 利用実態等	林道 戸根川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。路線沿線には神社があり、地域住民の利用が見られる。					

施設の状態等の概要	点検診断日	平成30年11月20日	
	調査結果	床版に漏水・遊離石灰、下部工に漏水・滞水・支承に支承機能の障害が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	部材に損傷が生じているものの、損傷規模は小さく道路橋に支障をきたす損傷ではないため、今後も定期点検による経過観察が望ましい。
	劣化原因	床版の漏水・遊離石灰は、施工時に乾燥収縮によりひびわれが発生した後、経年劣化により損傷が進行し漏水・遊離石灰に損傷が進行したもの考えられる。下部工の漏水・滞水や支承機能の障害は、路面排水の影響を受け発生した損傷と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	損傷は軽微であるため、次回点検による経過観察	
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和5年度に点検実施予定とする。	
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障は生じていないが、本路線は、林業施業により頻繁に利用され、路線沿線には神社があり、地域住民の利用が見られるため優先度は「中」とした。
	対策費用	定期点検 約 350千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	平成30年	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
対策費用(百万円)	0.35					0.35				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	15	林道台帳索引番号	7	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	内の口線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	内の口橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.03Km	建設年度	昭和45年
供用年数	50年	種別	RC橋	型式	RCコンクリートT桁
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	内の口川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.00m		幅員(車道幅員)	3.70m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリートT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
	橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 内の口線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻りに利用される。当該橋梁は集落より起点側に存在し、集落への出入りは当該橋梁に委ねられている。そのため、重要な施設であり、周辺地域住民の利用が多い路線である。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年5月28日	
	調査結果	主桁(01・02・03)に多数の剥離・鉄筋露出、床版(01・02・03・04)に漏水・遊離石灰の損傷が多数確認された。下部工(橋台01・02)に軽微な漏水・遊離石灰が確認された。橋面は地覆改修・防護柵改修・舗装改修が過年度に補修工事に対応済みである。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	各主要部材に損傷が確認され、損傷数も多く存在するが、各損傷は規模が小さく橋梁構造に影響を与える損傷までには発展していないと推測される。橋梁より奥地には集落が点在するため、予防保全の観点から、措置を講ずることが望ましい。
	劣化原因	主桁のひびわれは乾燥収縮が進行した損傷であり、うき・剥離・鉄筋露出はかぶり不足が経年劣化により進行した損傷、床版の漏水・遊離石灰はひびわれが進行した損傷と考えられる。	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	状況に応じて、主桁の剥離・鉄筋露出、床版の漏水・遊離石灰の補修計画検討及び対策、定期点検の継続予定とする。	
	実施予定時期	予防保全の観点から、上記同様の見解とする。	
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障は生じていないが、本橋は林業施業や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「高」とした。
	対策費用	定期点検 約 500千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、主桁・床版の損傷に対する補修計画を状況に応じて行い、適正な時期に定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、橋面の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
対策費用(百万円)	0.50					0.50				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	16	林道台帳索引番号	7	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	内の口線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	赤岩橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	1.4Km	建設年度	昭和45年
供用年数	50年	種別	RC橋	型式	鋼単純非合成H形桁
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷場山川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	18.00m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	鋼単純非合成H形桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	支承板支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		

施設の目的利用実態等	林道 内の口線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該施設付近には椎茸の原木栽培を行っており、原木の搬入・椎茸の搬出作業等、地域住民の利用が見られる。				
------------	---	--	--	--	--

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月21日			
	調査結果	床版の広範囲にひびわれが進行した漏水・遊離石灰が確認され、遊離石灰はつらら状を形成する損傷や錆汁を伴う損傷も存在する。また、錆汁を伴う遊離石灰があるため、躯体内の鉄筋の腐食・膨張が懸念される。			
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	広範囲に遊離石灰が分布することや錆汁を伴う遊離石灰も存在するため、躯体内の鉄筋の腐食・膨張が懸念され、躯体の中性化も疑われるため、今後は予防保全の観点から、状況に応じて補修計画の立案が望ましい。		
	劣化原因	竣工後50年経過した橋梁であり、施工時の要因(かぶり不足・乾燥収縮等)もあり、床版の漏水・遊離石灰が生じたものと思われる。路下は河川であり常時、水分が存在するため湿潤状態になりやすいことも要因していると考えられる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度			
	内容	状況に応じて床版の漏水・遊離石灰の補修計画検討及び対策、定期点検の継続予定とする。			
	実施予定時期	予防保全の観点から、上記同様の見解とする。			
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 現状は健全性はⅡであり道路橋の機能に支障は生じていないが、Ⅲにより近い状況と考えられることや林業施業により頻繁に利用されることもあり、優先度は「中」とした。		
	対策費用	定期点検 約 500千円			

管理方法	・林道施設個別施設計画策定として、床版の漏水・遊離石灰に対する補修計画を状況に応じて行い、適正な時期に定期点検を行う。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。				
------	---	--	--	--	--

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
対策費用(百万円)	0.50					0.50				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考										
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 予防保全型点検 										

個別施設整理番号	17	林道台帳索引番号	8	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	川曲線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	川曲橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.5Km	建設年度	昭和45年
供用年数	50年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	高畑川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.04m		幅員(車道幅員)	3.00m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 川曲線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、当該施設付近には椎茸の原木栽培を行っており、原木の搬入・椎茸の搬出作業等、地域住民の利用が見られる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年5月29日				
	調査結果	床版にうき・剥離・鉄筋露出が多数確認され、下部工(橋台01・02)の堅壁部にうき・剥離・鉄筋露出を多数確認した。防護柵の防食機能の劣化や地覆のうき・剥離・鉄筋露出も確認された。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	床版にうき・剥離・鉄筋露出が多数確認されたが、損傷規模は小さいことや橋梁の耐荷力に影響を与える損傷ではないと思われるが、今後は予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい。			
	劣化原因	床版01・橋台01・02にかぶり不足が進行したうき・剥離・鉄筋露出の損傷を多数確認した。かぶり厚が最小で1cm未満の損傷箇所も存在する。橋梁付近は日当も良い状況ではなく、桁下高3.8mと低いこともあり、現状の損傷箇所から水分の供給を受けやすい環境にある。そのため、冬季には凍結融解の作用で損傷が月日を経て拡大しつつある状況と思われる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	状況に応じて、床版・橋台堅壁の剥離・鉄筋露出の補修計画検討及び対策、定期点検の継続予定とする。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、上記同様の見解とする。				
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 今回、点検で確認された損傷は道路橋の機能に支障は生じていないが、本橋は林業施業や地域住民の生活道路となっていることから優先度は「中」とした。			
	対策費用	定期点検 約 250千円				
管理方法	・林道施設個別施設計画策定として、床版・橋台の損傷に対する補修計画を状況に応じて行い、適正な時期に定期点検を行う。 ・定期的な点検・調査を行う。また、橋面の清掃・維持作業を適切に行う。					

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
対策費用(百万円)	0.25					0.25				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に簡易点検実施 ・一般管理型点検

個別施設整理番号	18	林道台帳索引番号	9	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	笹の越線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	笹の越線
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.9Km	建設年度	昭和44年
供用年数	51年	種別	RC橋	型式	RCコンクリートT桁
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	笹の越川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.00m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリートT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		

施設の目的利用実態等	林道 笹の越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該橋梁奥地には、水稻栽培の農地が点在する他、滝(名所)へのアクセス道と機能しており、地域住民の利用が見られる。				
------------	---	--	--	--	--

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月21日			
	調査結果	主桁・横桁には損傷は確認されない。床版01・03にうき・剥離・鉄筋露出が発生し、鉄筋は腐食が発生している。地覆部も同様に損傷が生じている。			
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	竣工後50年が経過する橋梁であり、確認された損傷が、コンクリート部材の損傷を助長する要因となることが懸念されるため、補修を行うことが望ましいが、橋梁を走行する車両も限られている(橋梁より奥地には集落無し、耕作者の方が主な利用)こともあるため、次回点検による経過観察とする。		
	劣化原因	床版01・03に生じているうき・剥離・鉄筋露出は施工時のかぶり不足が進行した損傷であり、その後鉄筋に腐食が生じたものと考えられる。地覆部も同様に損傷がみられるが、舗装面に土砂詰まりが多いことや環境条件(日照条件)が悪く、凍害による損傷も疑われる。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度			
	内容	状況に応じて床版・地覆のうき・剥離・鉄筋露出の補修計画検討及び対策、定期点検の継続予定とする。			
	実施予定時期	予防保全の観点から、上記同様の見解とする。			
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 現状は健全性はⅡであり道路橋の機能に支障は生じていないが、本橋は林業施業や営農により頻繁に利用されることもあり、優先度は「中」とした。		
	対策費用	定期点検 約 250千円			
管理方法	・林道施設個別施設計画策定として、床版のうき・剥離・鉄筋露出に対する補修計画を状況に応じて行い、適正な時期に定期点検を行う。 ・定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。				

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
対策費用(百万円)	0.25					0.25				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考										
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 ・一般管理型点検 										

個別施設整理番号	19	林道台帳索引番号	11	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	大石線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	上大石橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.0Km	建設年度	昭和46年
供用年数	49年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	-	橋下条件	走川谷川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.55m		幅員(車道幅員)	4.00m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	-	塗装使用の有無	-
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道 大石線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該施設付近には椎茸の原木栽培を行っており、原木の搬入・椎茸の搬出作業等、地域住民の利用が見られる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年5月29日				
	調査結果	床版端部に軽微なうき・剥離・鉄筋露出を確認した。下部工には損傷は見られない。橋面に土砂つまりが確認された。				
	健全性の診断結果	I (健全)	点検にて確認された損傷は、軽微であり、橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷は確認されないため、次回点検による経過観察とする。			
	劣化原因	床版のうき・剥離・鉄筋露出はかぶり不足が進行した損傷と推測される。下部工は平成25年度点検以降に洗掘対策として根継工で対応されている。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷ではないため、次回点検による経過観察とする。				
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和7年度に点検実施予定とする。				
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 今回、点検で確認された損傷は道路橋の機能に支障は生じていないが、本橋は林業施業や地域住民の生活道路となっていることから優先度は「中」とした。			
	対策費用	定期点検 約 220千円				
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、橋面の清掃・維持作業を適切に行う。 					

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
対策費用(百万円)	0.22					0.22				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	20	林道台帳索引番号	14	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	杉の越線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	杉の越橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.0Km	建設年度	昭和47年
供用年数	48年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	内の口川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.60m		幅員(車道幅員)	3.60m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 杉の越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。また、ひむか神話街道へ接続する路線でもある。当該橋梁より奥地には民家が点在し、周辺地域住民の利用が見られる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年5月28日				
	調査結果	主要部材には、橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷は確認されないが、地覆に漏水・遊離石灰、うき・剥離・鉄筋露出が確認された。防護柵は防食機能の劣化が確認された。				
	健全性の診断結果	I (健全)	点検にて確認された損傷は、軽微であり、橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷は確認されないため、次回点検による経過観察とする。			
	劣化原因	地覆に確認された漏水・遊離石灰はひびわれが進行した損傷であり、うき・剥離・鉄筋露出はかぶり不足が進行して発生した損傷と推測される。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度				
	内容	橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷ではないため、次回点検による経過観察とする。				
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和7年度に点検実施予定とする。				
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 損傷は軽微であり、道路橋の機能に支障は生じていないが、本橋は林業施業や路線内には集落が点在し、地域住民の生活道及び通学路となっていることから優先度は「高」とした。			
	対策費用	定期点検 約 330千円				
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、橋面の清掃・維持作業を適切に行う。 					

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
対策費用(百万円)	0.33					0.33				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	21	林道台帳索引番号	15	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	笹の原線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	笹の原橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.05Km	建設年度	昭和49年
供用年数	46年	種別	RC橋	型式	RCコンクリートT桁
道路橋示方書	昭和39年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷場山川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	14.00m		幅員(車道幅員)	4.00m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリートT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道 笹の原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該橋梁奥地には、水稻栽培の農地が点在しており、地域住民の利用が見られる。					

施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年10月21日	
	調査結果	主桁にひびわれ・うき・剥離・鉄筋露出、横桁に漏水・遊離石灰、床版にうき・剥離・鉄筋露出・漏水・遊離石灰が生じている。下部工に漏水・滞水や支承機能の障害、橋面に路面の凹凸が生じている。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	竣工後50年が経過する橋梁であるが、道路橋の機能に支障を与える損傷は確認されないことから、次回点検による経過観察とする。
	劣化原因	主桁のひびわれは乾燥収縮によるものであり、床版にうき・剥離・鉄筋露出・漏水・遊離石灰は施工時のかぶり不足が経年劣化で剥離から鉄筋露出に進展したと推測される。漏水・遊離石灰は、錆汁等は見られないため、内部鉄筋の腐食は発生していないと思われる	

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度	
	内容	橋梁の耐荷力や耐久性に直接、影響を及ぼす損傷は確認されないため、次回点検による経過観察とする。	
	実施予定時期	5年に1回の定期点検として、令和6年度に点検実施予定とする。	
	施設の優先度	中	(健全度の考え方) 現状は健全性はⅡであり道路橋の機能に支障は生じていないが、本橋は林業施業や営農により頻繁に利用されることもあり、優先度は「中」とした。
	対策費用	定期点検 約 390千円	
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 林道施設個別施設計画策定として、5年に1回の定期点検を行う。 定期的な点検・調査を行う。また、排水施設の清掃・維持作業を適切に行う。 		

	令和1年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
対策費用(百万円)	0.39					0.39				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考
<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 一般管理型点検

個別施設整理番号	22	林道台帳索引番号	24	施設管理者	五ヶ瀬町
路線名	丹波山線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	丹波山橋
施設の所在地	五ヶ瀬町大字三ヶ所	起点からの距離	0.05Km	建設年度	昭和33年
供用年数	62年	種別	RC橋	型式	RCコンクリート床版
道路橋示方書	昭和31年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷場山川支流

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.30m		幅員(車道幅員)	2.00m
	施設の構造等	上部工形式	RCコンクリート床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落下防止の有無	無	
	橋台工形式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
橋脚工形式	—		海岸からの距離	—		

施設の目的 利用実態等	林道 丹波山線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は今後、林業施業により頻繁に利用される。当該施設付近には椎茸の原木栽培を行っており、原木の搬入・椎茸の搬出作業等、地域住民の利用が見られる。				
----------------	---	--	--	--	--

施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年5月29日			
	調査結果	床版の広範囲にうき・剥離・鉄筋露出、漏水・遊離石灰を確認した。下部工(橋台01)は過年度点検以降に補修工事で根継工が施工されているが、基礎の洗掘が新たに確認された。			
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	広範囲にうき・剥離・鉄筋露出が分布することや橋台01の基礎部に新たな洗掘が発生している。床版の鉄筋は膨張が懸念され、躯体の中性化も疑われるため、今後は予防保全の観点から、状況に応じて補修計画の立案が望ましい。		
	劣化原因	竣工より60年以上経過した橋梁のため、当時のコンクリート配合不良が大きく影響していると思われる。床版には橋面からの漏水の影響が見られる。桁下高が2.8mと低いこともあり、損傷箇所から水分の供給を受けやすく凍結融解の繰り返し作用で損傷が月日を経て拡大したと思われる。橋台基礎部の洗掘は豪雨時の流水作用により発生した推測される。			

長寿命化計画の内容	計画期間	令和3年度～令和7年度			
	内容	竣工から60年経過した橋梁であり経年劣化による損傷要因も大きいと思われる。鉄筋の膨張や破断、躯体の中性化も疑われる。また、床版のコンクリート配合不良による橋梁耐荷力の懸念があるため、詳細調査が必要と考えられる。			
	実施予定時期	状況に応じて、通行車両の制限等の措置が必要			
	施設の優先度	高	(健全度の考え方) 本橋は林業施業や椎茸栽培等で地域住民の生活道路となっていることや健全性の診断結果「Ⅲ」であるため、優先度は「高」とした。		
	対策費用	定期点検 約 370千円			

管理方法	・林道施設個別施設計画策定として、損傷状況・規模等の詳細調査(補修設計)が必要であり、その後に補修工事を状況に応じて対応する。 ・定期的な点検・調査を行う。また、橋面施設の清掃・維持作業を適切に行う。				
------	---	--	--	--	--

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
対策費用(百万円)	0.37					0.37				
対策の内容・実施時期	点検					点検				

備 考										
<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度に簡易点検実施、平成27年度に長寿命化修繕計画の実施 ・一般管理型点検 										